

# 厄年

今は誕生日が来ると年を重ねますが、昔は正月に年神さまをお迎えして神様の御魂を頂くのが一年の始まりで、その時に年を重ねると考えられていました。そのようなわけで厄祓いの御祈願は今でも旧暦の正月までに行うのが一般的です。  
厄年の頃は人生の転換期といわれ、最も健康面に気を付けねばならない時期です。お祓いを受け、良い節目となるよう祈願し、心身共に晴れやかに毎日を過ごしましょう。

## 令和五年の厄年表(数え年)

男の厄年		
前厄 24歳 たつ 平成12年生	本厄 25歳 うさぎ 平成11年生	後厄 26歳 とら 平成10年生
41歳 いし 昭和58年生	42歳 いぬ 昭和57年生	43歳 とり 昭和56年生
60歳 たつ 昭和39年生	61歳 うさぎ 昭和38年生	62歳 とら 昭和37年生
女の厄年		
前厄 18歳 いぬ 平成18年生	本厄 19歳 とり 平成17年生	後厄 20歳 さる 平成16年生
32歳 さる 平成4年生	33歳 ひつじ 平成3年生	34歳 うま 平成2年生
36歳 たつ 昭和63年生	37歳 うさぎ 昭和62年生	38歳 とら 昭和61年生
60歳 たつ 昭和39年生	61歳 うさぎ 昭和38年生	62歳 とら 昭和37年生



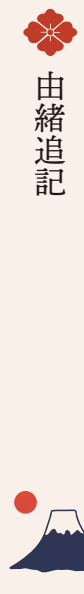
## 天祖神社の御祭神・御由緒

天照大神 (神明さま)  
応神天皇 (八幡さま)  
天児屋根命 (春日さま)



江戸中期に編纂された幕府官撰地誌「新編武蔵風土記稿」には上下の神明社勧請の年歴は不明とあるが、御神木であるカヤは樹齢六〇〇年を超えているとの見立てもあり、社も室町時代には在ったと想される。同風土記稿中の「正保年中改定図」に下神明の元である下蛇窪の記が初めて見られることから正保元年(一六四四)を上下の村の成立元年として昭和五十八年に両社で三四〇年祭が斎行され、以降十年毎に式年大祭が行われている。当社が現御祭神を迎え神明社として鎮座したのは、江戸初期に広く流布していた伊勢信仰や伊勢・八幡・春日の三神を祀る三社託宣信仰に依るものである。

現在では区内最大の御神木と大狛犬や最長の参道などを有し、神社を中心に雅楽の稽古が盛んに行われるなど伝統文化継承にも力を入れている。



## 由緒追記

平成三十年、氏子有志歴史研究会が村や当社の興りについての検証経過を公表。それに依ると十五世紀に藤原秀郷の末裔を頭とする一族が常陸国より遣わされて此の地を開墾。村の東高台に先祖神・天児屋根命を祀る社を建てたとの伝えが子孫の家に残る等、様々な事柄が判明。依って当社の元は天児屋根命を祭神とする春日社で江戸初期に天照大神と応神天皇を迎え神明社となったと考えられる。

現在も品川歴史館主導で氏子内旧家に伝わる古文書の調査が進められている。

## 神明縁日 宮司 福岡三朗

縁日といえば子供の頃に行ったお祭りの露店の賑やかな風景が思い出されます。本来の意味は神社の縁(ゆかり)の日のことで、鎮座や村の創立など歴史上重要日を指します。盛大に斎行される祭典に伴い様々な行事が繰り広げられ境内も大いに賑わいます。依って子供の目から見ると縁日＝夜店と感ずるでしょう。

但し、天祖神社で令和二年より行っている神明縁日は少し意味合いが異なります。古来より人々は様々な交流を通じて縁を深め社会を為してきました。家庭でも学校でも職場でも良い人間関係、即ち良い人と繋がる事が大切で、それを構築する事でより良い暮らしへと向かいます。しかし今はコロナ禍で人同士が顔を合わすことが減り会話の少ない生活に陥っています。此の状況は人が生きて行くには欠かせない互いの結びつきが薄くなっているのではないかと感じ、縁を深められる催しとして企画したものです。町会や近隣商店、個人が模擬店を出して大勢の氏子が集い笑顔が溢れ楽しく会話することによって地域の絆が深まり安全な良い町が作られていきます。

薄くなったものに濃いものが近づくこと徐々に中和されるが如く縁においても人の行き交いが増せば再び深まっていくことでしょう。しかしながら、それが良縁か悪縁かに依って生活が大きく違ってきます。大神様が楽しく見守る賑やかな境内には邪鬼は入り込み辛いので、そこで得られた縁は間違いない良縁となることでしょう。年二回の神明縁日に限らず、正月、節分、田植、稲刈り、お祭り

# 節分祭

## 鬼は外、福は内

令和五年の二月三日、三年ぶりに氏子崇敬者による豆撒きを行う予定です。うさぎ年の方は勿論、うし年、とら年生まれの方も声高らかに「鬼(ヨニ)は外」「福は内」と豆を撒き、世間に漂う邪鬼を追い払い、福富を迎えましょう。



## 下神明天祖神社



各種ご祈願・行事参加  
地鎮祭・神葬祭の  
お申し込み・詳細のお問合せは  
天祖神社社務所まで  
電話：03-3782-7349

ホームページからのお問合せも可  
<https://shimo-shinmei.jp/>

※年末年始のメールでのお問合せは社務の都合上お返事が遅くなる場合があります。  
お急ぎの方は必ず社頭またはお電話にてお問合せください。

- 氏子区域
- 二葉一丁目・二丁目・三丁目17～21
  - 豊町三丁目・豊町四丁目(1を除く)
  - 戸越五丁目(1,2,14,15を除く)
  - 大井二丁目1の一部

## 御日供詞のこと

などは全て御神縁を頂き、良縁が深められる機会となります。神社に足を運び薄まった縁を良縁で満杯にして幸多き人生を送って頂きたいと願います。

当社では毎朝五時に開扉し、御神前に神饌を献じる御日供祭を行っています。祝詞の前半は「〇年〇月〇日の朝の日が昇る時に供えた日毎の神饌をお召し上がり下さい。今上陛下の世を長く久しく御守り下さい。氏子崇敬者を始め全ての人達が心身ともに健康で与えられた役割を果たせられるよう御守り下さい」という古くからの制定文で、後半が「東日本大震災被災地の復興と被害者の救済、感染症とウクライナでの戦争の収束、氏子の心身に潜む病巣の祓除」という祈願文を奏上しています。その他に心願成就の御礼文や手術に臨む方の成功祈願などを奉読する日もあります。

そこで注視頂きたいのは、祈願文には新しい願意は無く、全て原状回復が目的だということです。恐らく将来の祝詞には令和五年頃の状況に戻して欲しいという内容も出てくると思われまます。そう考えると、もしかしたら今現在が幸多き時期なので無いのか?という思いに至ります。元気に歩き回る肉体を持ち、親子で笑い合える家庭があること、祝詞を読む度に此の状態で当たり前では無く非常に有り難い事なのだと思付かされます。



神明縁日で賑わう境内





# 新しい年のはじめに 昇殿参拝

天祖神社では一年の始まりに「新年祈願祭」(昇殿参拝)にて、家内安全、商売繁盛、社運隆昌、厄除他諸祈願を承っております。皆様が清新なるお心で、新春を迎えられますことをご祈念申し上げます。



## 仕事始め祈願(会社団体祈願)

商売繁盛・社運隆昌・事業発展  
社内安全・交通安全・開運招福・他  
式の終わりに代表者発声により神酒拝戴を行います。

## 個人祈願

家内安全・商売繁盛・初詣詣・厄年祓除・交通安全・車載  
身体健全・病氣平癒・良縁成就・開運招福・合格祈願  
安産祈願・心願成就・他

昇殿参拝された方には  
木札に祈願・氏名(会社名)を記し、お渡ししております。

昇殿参拝のご予約は 天祖神社社務所まで  
電話 03-3782-7349

事前のご予約(お電話可)が必要となります。  
多少お時間が前後する場合がございますので予めご了承ください。



昭和八年(一九三三)大狛犬奉獻



安政五年(一八五八)上棟の社殿

下蛇窪村の大庄屋家の伝えによると六百年程前に起こった関東での動乱の際、鹿嶋神社の守りとして常陸国より派遣された藤原秀郷の末裔である伊藤家を中心とする集団が此の地を開拓した。家の氏神を祀っていた神社は江戸初期の下蛇窪村発足時に村の鎮守として神明社に改められたとされ、昭和五十八年に社名制定三百四十年祭が斎行された。以降十年毎に式年祭を行い、令和五年は三百八十年祭の年となります。過去に倣い秋の例大祭は本祭としてそれに相応しい行事や事業を予定していますので多くの方々に関わり頂きますようお願い致します。

## 社名制定三百八十年

神明稻荷講は天祖神社境内社である村始まりの社・小市郎稻荷社を崇敬する講中です。江戸末期に置かれた石碑には寛文八年(一六六八)の干魃時に雨をもたらしたとあります。天祖神社主祭神の天照大神の御神徳が陽の恵みであるのに対し、稻荷社は雨の恵み、両社の御力が程よく発せられることで豊かな生活が成立します。神明稻荷講では天祖神社の支えとなる稻荷社の神威発揚を目標に活動しています。  
※現在、のぼり旗の奉納を募っています。  
一本三千円、小市郎稻荷社参道に一年間掲げられます。

## 神明稻荷講よりのお知らせ

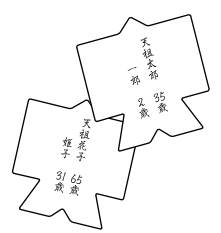
# 形代と御神札

## お焚き上げについて

お焚き上げできるものは御神札、お守り、神社で授与しているものです。  
●お人形・ぬいぐるみはお預かりできません。  
●ダルマはお受けになつたところへお納めください。  
●金属、ガラス、陶器などの燃えないもの、またビニールなど燃やすと有害なものは外してお持ちください。  
●延焼の危険がありますので、紙(特に新聞紙)には包まずにお持ちください。  
●伝統行事を末永く続けるためにも、ご協力を願います。  
●ご不明な点がございましたら、社務所までお問い合わせください。



形代は二枚入っています。  
一枚を男性、一枚を女性に分けるなどして  
●ご家族全員のお名前、年齢を記します。  
●息を三度吹きかけ、形代で体をなでて心身の罪穢れを移します。  
形代が手元ない方はお知らせ下さい。  
神社よりお届け致します。



## 御神札

年の暮れには大掃除をして新しい年を迎える準備をしますが、同様に神棚も綺麗にして新しい御神札をおまつりしましょう。  
天祖神社では、毎年年末に氏子の方々へ新年の御神札を頒布しております。年内にお受けになり、清なお心で新春をお迎えください。古い御神札は神社でお焚き上げいたします。年間お守り頂いたことに感謝申し上げてから神社へお納め下さい。

# 年越の大祓神事



年越しの納めの祓する人は 延寿の春を迎えるというなり  
どなたでもご参列頂けます。  
12月30日 午後7時

大祓神事は12月30日午後7時より斎行いたします。形代は神事の始まる前までに初穂料をそえて神社にお持ちください。天祖神社では古式にのっとりお祓いをし、形代を犬吠崎沖に撒いて皆様の罪穢れを流します。



形代をお持ちください。



年越大祓神事



毎年行われていた犬吠崎での形代流し神事